

博物館だより

第21号



長野盆地周辺の板碑について

小山 丈夫



板碑を祀るお堂(堂内中央が板碑)▲

長野市芋井地区



◎はじめに

板碑とは中世石造供養塔の一種であり、五輪塔・宝篋印塔などと共に全国に各地域特有の遺品が存在している。長野盆地（善光寺平）の場合も地域性を有する板碑が存在していることは従来考えられていたが、はたしてそれがどのような内容であるのかはほとんど知られていない。その点から今回長野市立博物館が特別展「長野盆地の文化財―祈りの諸態―」に長野の代表的な遺品を展示する機会を持たれたことは、今後の地域史研究のためにも非常に意義深いことと思われる。

現在私のカードには、長野市内に100基弱、周辺市町村を含めると120基程の中世、および中世と思われる板碑が収録されている。材質は埼玉県秩父産出の緑泥片岩製と在地の安山岩製に、年代は1) 鎌倉末から南北朝、2) 室町前期、3) 室町後期に大別される。分布は善光寺平でも長野市域の犀川以北に9割方集中しているが、これは私のフィールドがこの地域であるための調査精度と関連している。以下展示遺品を中心に緑泥片岩製、安山岩製の順に概要を述べたい。

◎(1) 青石(緑泥片岩)製板碑

○長野市中御所観音寺嘉暦元年銘板碑

高21cm、基幅8cm、頂部に二条線を刻み、蓮台上に阿弥陀種子（キリーク）を置く典型的な武蔵型板碑でありながら、極めて小型の完型品で、全国でも最小クラスであろうと思われる。銘文は「嘉暦元年八月」とあり、西暦1326年鎌倉時代に遡る長野市内では最古の石造塔銘である。この板碑には種子・蓮台・枠線等に金泥が残り、かつては金色に装飾されていたことが分かる。現在残っている板碑は長年の風雪によって古色を帯びた姿となるものが殆どだが、近年発掘調査によって出土する板碑には割合多くの金が残るものがあって、金装飾が板碑の荘厳として広く行われていたことが知られている。この塔には磨滅がみられず、当初から室内で祀られていたものかと思われ、そのためか金が残り、きらびやかな様子が想像されるのは幸いである。この板碑がどのように観音寺に伝来したかは定かでない。しかし早くも昭和初年には栗岩英治氏が注目され、当時すでに観音寺に古くから伝来したといわれていたらしい。

○長野市西長野往生寺板碑

現高41cm、幅15cm、下部を欠損する。蓮台・阿弥陀種子が刻まれるが、武蔵型に特徴的な二条線は見られない。蓮台は南北朝期の特徴を有している。ご住職の談によると門前の某家敷地出土と考えられるふしがあり、これは先住以前の事であるという。現在確認できた出土青石板碑としては善光寺平唯一の遺品として貴重である。

○長野市篠ノ井高地蔵堂板碑

現高54cm、幅29cm、種子を金装（後補）し石造地藏菩薩・薬師如来（共に市指定文化財）を脇侍に従えたこの板碑は、享保四（1719）年の裏書のある懸額に「往古從佐渡国此地御渡 薬師如来 阿弥陀如来 種子 地藏菩薩 弘法大師作」とあり、江戸中頃にはすでに堂宇の本尊として信仰を集めていたことがわかる。阿弥陀三尊種子と蓮台、二条線・天蓋を具備した堂々たる武蔵型板碑であるのだが、佐渡渡りの伝承は何を意味するのだろうか。紀年銘を欠くが天蓋や種子の様式は鎌倉後期弘安年間頃の特徴を示しているという（野口達郎氏御教示）。

この外に、観音寺板碑とほぼ同型であったという昭和7年長野市箱清水花岡平出土の嘉暦三年四月とご月銘板碑をはじめ、善光寺平には数基の武蔵型板碑が在ったらしいが行方不明であるものが多い。また今回確認された松代大英寺(表紙)や塩崎長谷寺の板碑のように流入、あるいは、秘蔵されているものの実数も明らかでなく、現在その存在を確認中である。



▲往生寺出土の板碑



▲観音寺「嘉暦元年」銘板碑



◀篠ノ井高田区の板碑

(2) 安山岩製板碑

○長野市後町十念寺応永十五年銘板碑

『長野県史通史編』にも掲げられた比較的著名な板碑である。六字名号の上四字を欠き、現高66cm、基幅43cm、完型なら等身大はあったかと思われる立派なものである。正面下部の銘は「應永十五(1408)年 為十阿上人之 黄鐘吉日諸衆」と三行に刻み、供養者と被供養者が判明する。この銘は従来「黄鐘吉日法界」と読まれていたが、東大史料編纂所助教授 千々と到氏の御教示によって「黄鐘吉日諸衆 固」と判読された。十阿上人は応永七年の大塔合戦に戦死者の弔葬をした十念寺聖の統率者とする説があり、上人の供養のために結衆が造立したものと見られる。

○上水内郡三水村世尊庵永享二年銘板碑

三水村御所ノ入地籍世尊庵跡の石段脇にあった。本尊は名号で『三水村の石造文化財』に銘は判読不明として収録されているが、実査したところ、永享式(1430)年十二月銘が確認された。両側面には20数名の交名が刻まれ二字法名・阿号・大法印号の他、中には犬御前・馬四郎といった姓のない俗名があり、何らかの宗教行事を広範な結衆によって執行した記念の供養塔と見られる。肝心の趣旨や造立主者銘は正面下部にあると思われるが、磨滅が進み精査が必要である。ことに姓を持たない身分の者を含めた結衆による建造物となると、県内では御代田町真楽寺の応永二(1395)年銘を持つ木造仁王像に次ぐことになり、勿論石造塔では最古となる。なお現在は同村芋川の健翁寺境内に移建されている。

○長野市元善町福生院永享十一年銘板碑

福生院境内発見で上部を欠き現高48cm、正面中央に独特の草書で六字名号を刻み、左右に「永享十一年(1439)年七月十五日 一夏念仏供養」の銘がある。名号は時宗の遊行上人自筆と伝わるものの書体に酷似し、これは他の板碑には殆ど例を見ないものである。また一夏(夏安居か)念仏も唯一例であり、今後、「善光寺の時宗」という観点から研究を要するものと考えられる。

○長野市若里仏導寺板碑

墓地内にあったこの塔は下部欠損で銘も不明ではあるが、安山岩製でありながら二条の切込と葉研彫のキリークは武蔵型の正面観のそれである。また最近、長野市芋井でこれに近い側面に二条切込のある安山岩板碑を見たが、これらは善光寺平の在地板碑が武蔵型の模倣から始まったことを教えてくれる。

以上、現在確認される15世紀前半の在地板碑三基はいずれも本尊は名号で集団造立である。これが後半になると、善光寺「文明十七(1485)天 □阿」名号板碑、長野市古牧宝樹院「延徳三(1491)天 専」名号板碑など、一名のみ法名を刻み趣旨を記さない墓碑的な板碑が現れる。そして16世紀代に入ると、この系譜を引く定形化された小型板碑が造られ、数量的には長野の板碑の大半を占めるようになる。

出品資料である長野市古牧春原氏永正十二(1514)天銘、長野市上松滝十王庵天文二十(1551)年銘、長野市若里姫塚霊園天文二十二(1553)年銘板碑をはじめ、16世紀代の遺品はいずれも駒型で総高40cm前後、幅18cm前後の規格品ともいべきものである。本尊には名号・阿弥陀一尊種子・阿弥陀三尊種子・五大種子・金剛界五仏種子などがあり、なかでも五輪塔を浮彫・線彫したものが最も多く、年紀不明ながらこの時期と思われる。また元々本尊や年紀を刻まない例が多くあるらしく、本尊や銘文を墨書したものがあつたとみられ、長野市西長野西光寺板碑には微かに墨痕らしいものが残る。

このように天文年間(1532~55)の在銘品だけでも8基が遺存し、小形化して長野の普遍的な石塔形式として定着しつつあつたとみられる板碑ではあるが、姫塚の天文二十二年を最後に在銘品は見られなくなる。これは他の石塔についても同様で、善光寺平には16世紀末までの在銘品はほぼ皆無である。奇しくも天文二十二年は甲斐武田・越後上杉氏の第1回川中島合戦のあつた年であり、このことはどのよう

な人々が板碑を造立していたかを知る鍵となるのではないかと思われる。

おわりに

私は過去四年間に亘って個人的に長野の板碑調査を行ない、また本企画にリスト作成の段階から関わった関係上から、おこがましくも解説文を書く羽目になってしまった。ただ所詮一個人の目に着いた遺例には限界があり、現段階で「長野の板碑はこうである」式のことを言えるとはさらさら思っていない。それよりもでき得れば、この展示を御覧になった方々が、この見落とされがちな石塔の一つでも多く目に留めていただき、中世びとの信仰の証しとして認識するための契機となれば幸いです。

(佛教大学学生)



▲福生院出土の板碑



▲伝時宗二祖他阿真教
筆名号
(京都長楽寺蔵)



▲三水村 世尊庵の板碑



▲長野市古牧・春原邸出土の板碑



▲長野市上松・十王庵の板碑

長野市周辺の有紀年銘板碑一覽

9	8	7	6	5	4	3	2	1	所在地(材質)	銘文	高	備考
長野市元善町 善光寺正覺院墓地 (安山岩)	長野市古牧高田北条町 春原和昭氏 (安山岩)	長野市河原崎町 地藏堂内 (安山岩)	長野市古牧平林 宝樹院墓地 (安山岩)	長野市元善町 善光寺墓地 (安山岩)	長野市元善町 善光寺福生院境内 (安山岩)	上水内郡 三木村御所ノ入 世尊庵跡地 (安山岩)	長野市西後町 十念寺墓地 (安山岩)	長野市中御所 観音寺 (緑泥片岩)	長野市元善町 善光寺正覺院墓地 (安山岩)	嘉曆元年八月 應永十五年	23	
85	66	27	72	57	48	85	66	23	高	備考		

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
長野市篠ノ井塩崎 長谷寺 (緑泥片岩)	長野市若里西町 姫塚壺園中央 (安山岩)	長野市上松滝 十王庵十王堂内 (安山岩)	長野市若里西町 姫塚壺園高橋家墓地 (安山岩)	長野市長沼穂保 長沼城跡天王宮 (安山岩)	長野市古牧高田北条町 春原和昭氏 (安山岩)	長野市長沼津野 忠恩寺跡地墓地 (安山岩)	長野市茂菅 静松寺墓地 (安山岩)	長野市若里西町 松參寺墓地 (安山岩)	長野市元善町 善光寺正覺院墓地 (安山岩)
80	42	42	45	30	22	32		16	37
市川雄一郎『南佐久郡の板碑』に記載あり。埼玉県桶川発見。	持ち込まれたもの。	『長野十四号』に紹介。もと壺西側墓地にあり。	霜田巖『三輪の文化財』	丸木の痕跡あり。	同地出土。			丸木の痕跡あり。	

南無阿弥陀佛

(注)
〔正面〕
永享貳年 隆伎
一阿
大
〇智弥
〇壽阿造

〔右側面〕
本阿 徳阿徳一性
性林寿阿 〇〇行念三阿
本阿松若房 徳阿大法印智
犬御前馬四郎 性阿妙心
〔左側面〕
法一経 徳道 性祐
念阿内 阿初清徳
〇〇光 阿道

第29回特別展

長野盆地の文化財

長野市には、国・県・市の指定を受けた「指定文化財」が182件存在します。これらは、私達の祖先がその時代に生きたあかしとして、あるいは心のよりどころとして、大切に守り・伝えてきたものです。

ところで、長野市には、このように多くの文化財が存在するわけですが、これらは、長野市の歴史の深さに関係していると思われます。すなわち、中世以来長野のシンボルとなった善光寺・近世にあっては、信濃国でいちばん大きな藩であった「松代藩」の存在は、長野盆地の歴史を大きく動かし、独自の文化をつくってきました。

現在まで指定を受けている「文化財」は多岐にわたりますが、これを見ると、仏画の類の指定や、「大名文書」以外の古文書の指定があまりにも少ないことに気がきます。殊に、前者に関しては、近年善光寺大勧進や大本願に鎌倉時代以降の多くの仏画が存在することがわかりました。今後、これらをどのように扱っていったらよいのか、重要な問題といえます。

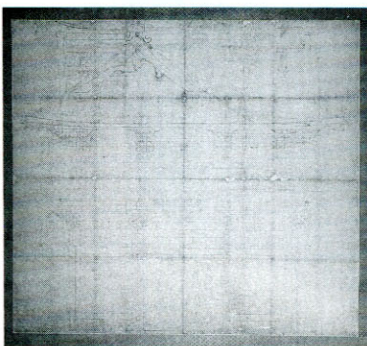
こうした文化財は、個人で所蔵されている場合が多く、一般に公開されることの少ないものも多くあります。また、仏像なども、当然のことながら、直接お寺に赴かないとなかなか拝観する機会に恵まれません。

今回の展示の主眼は、郷土の文化財の数々を知っていただくとともに、文化財に対する関心を高めていただくというものです。

できるだけ多くの文化財に接していただくため、展示も2回にわけて大きなテーマを設定し開催いたします。多くの方々のご来館をお待ちいたしております。

また、本企画に快くご賛同いただきました御所蔵者のみなさまがたに、心より御礼申し上げます。

～ 主な展示品 ～



▲善光寺造営図
大勧進蔵
重要文化財



▲銅造観音菩薩立像
丸山茂氏ほか4名蔵
重要文化財



▲木造地藏菩薩立像
松代町西条清水寺蔵
重要文化財

この展示では、長野市内に存する、書画、古文書、歴史資料の類を展示いたします。

主なものとしては、善光寺造営図（重文）、源氏物語事書（重文）をはじめとして、お寺で大切に伝えられてきた文化財や、個人のお宅に所蔵されてきた美術品などが多く含まれています。

資料名	所有者(敬称略)	指定	備考
善光寺如来絵伝	元善町 淵ノ坊	長野市指定	3幅
絹本着色観音聖人絵伝	吉田 善敬寺		2幅
日吉山王曼荼羅	元善町 大勸進	重要文化財 長野県宝	楼門・鐘楼
善光寺五重塔設計図（寛政五年）	同 上		
善光寺造営図	元善町 大勸進		
開善寺 棟札	松代町 開善寺		
六角銅製釣灯籠	元善町 玉照院		
徳川家康書状	元善町 大本願		
海野家文書	松代町 海野訓		
東光寺文書	松代町 東光寺		
明徳寺文書	松代町 明徳寺		
大豆島区有文書	大豆島区		
大開檢地帳	中水鉦 青木十郎	長野市指定	3点
佐久間象山 水墨山水図	松代町 八田勇		
四条歌舞伎祇園社頭図	古牧 塚田俊之	重要美術品	6曲1双
白衣観音坐像図	東之門町 寛慶寺	長野市指定	
源氏物語事書	元善町 大勸進	重要文化財	
花鳥の図	吉田 善敬寺	長野市指定	
鬼女紅葉狩の図	長沼大町 西巖寺	長野市指定	
三十六歌仙の図	松代町 大英寺	長野県宝	2枚
松代焼コレクション	長野市	長野市指定	

この展示では、長野市内に存する、仏像、仏具の類を展示いたします。

主なものとして、松代清水寺の地藏菩薩像や、篠ノ井荒神堂の伝子安荒神坐像（いずれも重文）など、市内のおもだった仏像がそろいます。また、板碑の展示も同時に開催いたします。

展社示資料名	所有者(敬称略)	指定	備考	
(仏像)	木造地藏菩薩立像	松代町西条 清水寺	重要文化財	
	木造毘沙門天像	同 上	長野市指定	
	木造薬師如来立像	同 上	長野県宝	
	木造阿弥陀如来立像	松代町西条 西薬寺	長野市指定	
	木造伐折羅大将像	元善町 大本願	長野市指定	
	木造聖徳太子立像	同 上	長野市指定	
	銅造阿弥陀如来一光三尊像	安茂里 無常院	長野市指定	
	木造大日如来坐像	若槻 円龍寺	長野市指定	
	銅造観音菩薩立像	若槻 丸山茂ほか4名	重要文化財	
	木造伝子安荒神坐像	篠ノ井村山 荒神堂	重要文化財	
	木造地藏菩薩立像	篠ノ井塩崎 長谷寺	長野市指定	
	木造毘沙門天像	元善町 世尊院	長野市指定	
	銅造観音菩薩立像	若徳保科 小泉敏伯	長野市指定	
	木造聖観音菩薩立像	川中島 切勝寺	長野市指定	
	石造地藏菩薩坐像	篠ノ井布施高田 高田区	長野市指定	
	石造薬師如来坐像	同 上	長野市指定	
	板碑	同 上		
	(仏具)	銅造釈迦涅槃像	元善町 大勸進	重要美術品 長野市指定
		五銚杵	元善町 大勸進	
五銚鈴		元善町 世尊院		
翔磨金剛		同 上		
嘉暦元年銘 青石		中御所 観音寺		
(板碑)	阿弥陀種子 青石	西長野 往生寺		
	永正12年銘 安山岩	小牧高田 春原和昭		
	阿弥陀種子 安山岩	北市 仏導寺		
	天文22年銘 安山岩	同 上		
	永享11年銘 安山岩	元善町 福生院		
	天文20年銘 安山岩	上松 十王庵		
	墨書供養塔	西長野 西光寺		
	五輪塔線彫	同 上		
	(経筒)	仁平元年銘	篠ノ井 長谷寺	